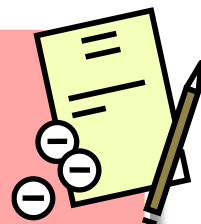


第13回「浅草かんわネットワーク」研究会



症例検討会：薬剤師からみたがん患者 ～ 処方箋から見えるもの(Basic) ～



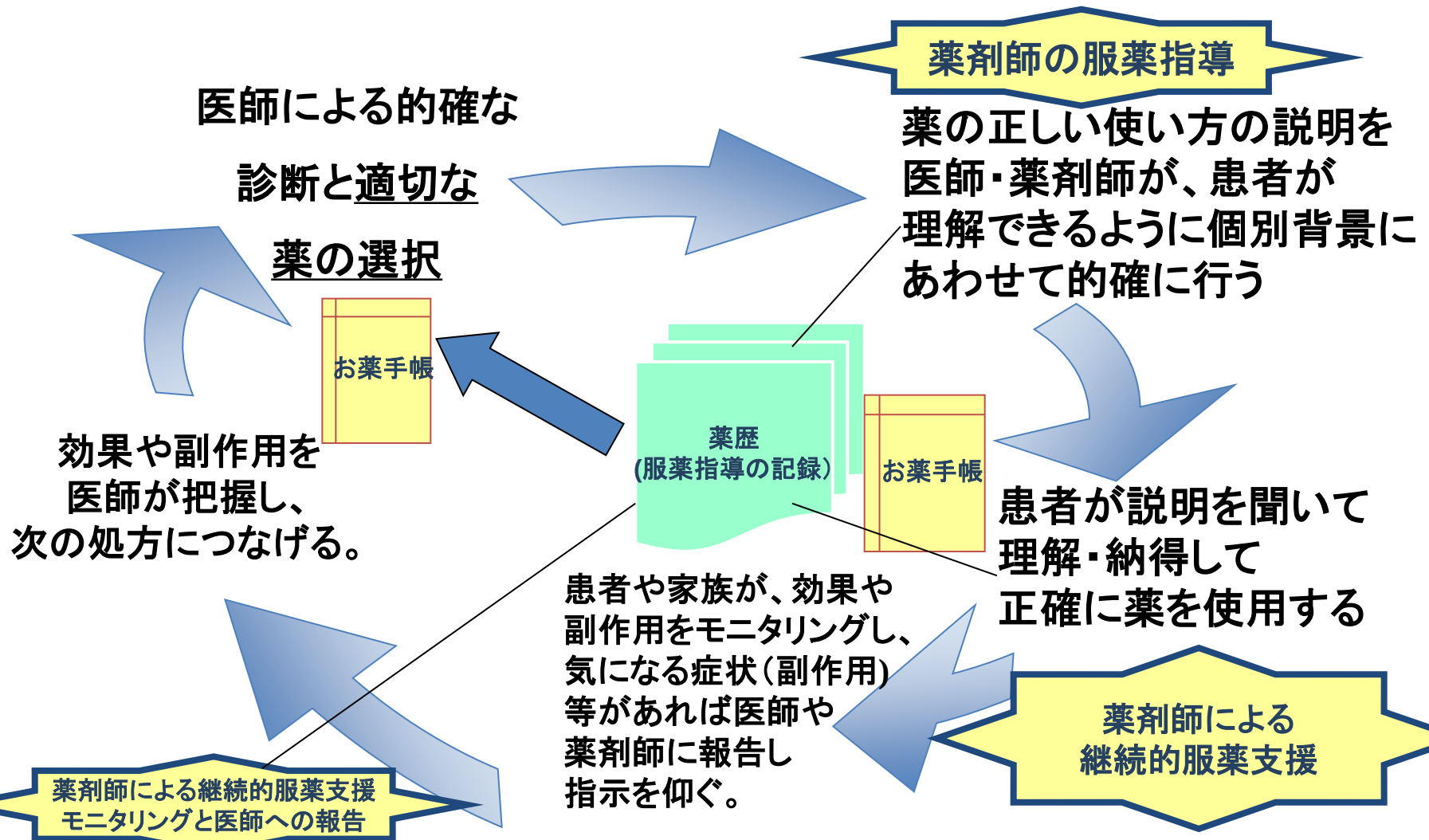
ケイ薬局 / 浅草在宅おくすり(DI)研修会/NPO法人HAP
宮原富士子(在宅担当薬剤師)

薬剤師からみたがん患者 ～ 処方箋から見えるもの(Basic) ～



- ① 共通用語づくりを目標に!!
～ 処方箋の流れと薬剤師の関わり解説～
- ② 処方せん事例をパターン化して ご紹介。
- ③ みえてきた課題

“医薬品の適正使用”と“服薬指導-薬歴-おくすり手帳”の役割 おくすりと安全に有用に適正に使用してゆくためのサイクル



薬剤師からみたがん患者 ～ 処方箋から見えるもの(Basic) ～



- ① 共通用語づくりを目標に!!
～ 処方箋の流れと薬剤師の関わり部分の解説～

薬剤師の職能+薬局の機能

医療提供施設

医療は国民自らの健康の保持増進のための努力を基礎として、医療を受ける者の意向を十分尊重し、病院、診療所、介護老人保健施設、調剤を実施する薬局その他の医療を提供する施設（以下「医療提供施設」、医療を受ける者の居宅等において、医療提供施設の機能（以下「医療機能」という）に応じ、効率的に、かつ、福祉サービスその他の関連するサービスとの有機的な連携を図りつつ提供されなければならない。

薬剤師の義務・責務

☆適正な情報提供と受診勧告（健診の勧め）

☆情報の提供の義務（薬剤師法第25条の2）

☆疑義照会（薬剤師法第24条）

☆イベントモニタリングとフォロー

処方せん調剤～服薬指導(在宅含む)

【調剤前の問診】

- ①体質・アレルギー
- ②患者・家族からの相談事項の有無
- ③服薬状況
- ④残薬の状況確認
- ⑤服薬中の体調変化
- ⑥併用薬等
- ⑦合併症・既往歴等
- ⑧他科受診の有無
- ⑨副作用が疑われる症状の有無
- ⑩飲食物情報等
- ⑪後発医薬品の使用に関する患者の意向

処方せん

記載事項
被保険者証の記号・番号
保険者の番号
患者の氏名・年齢
患者の住所
薬品名、分量、用法
用量(投与日数)
処方せんの発行年月日
処方せんの使用期間
麻薬の使用者の免許証番号
医師の氏名の記名・押印または署名
病院所在地・名称・印



処方せん監査

疑義照会

調剤



調剤監査

入力



調剤録監査

調剤・調剤録監査

服薬指導



医薬品の適正使用をふまえた服薬指導

服薬遵守率(コンプライアンス)を上げ、
患者の取り組みに基づくターゲット疾患の
治療の効率をあげ(アドヒアランス)、
患者と介護者の情報を適正に判断した次
の治療への援助(コンコーダンス)
の仕組みをつくってゆくことになる。

ハイリスク薬

I.厚生労働科学研究「医薬品の安全使用のための業務手順書」作成
マニュアルにおいて「ハイリスク薬」とされているもの。

- 1.投与量等に注意が必要な医薬品
- 2.休薬期間の設けられている医薬品や服用期間の管理が必要な医薬品
- 3.併用禁忌や多くの薬剤との相互作用に注意を要する医薬品
- 4.特定の疾病や妊婦等に禁忌である医薬品
- 5.重要な副作用回避のために、定期的な検査が必要な医薬品
- 6.心停止等に注意が必要な医薬品
- 7.投与量が単位(Unit)で設定されている注射剤

お薬手帳の記載事項

<手帳に記載する事項>

- ・患者の氏名、生年月日、連絡先等患者に関する記録
- ・患者のアレルギー歴、副作用歴等薬物療法の基礎となる記録
- ・患者の主な既往歴等疾病に関する記録

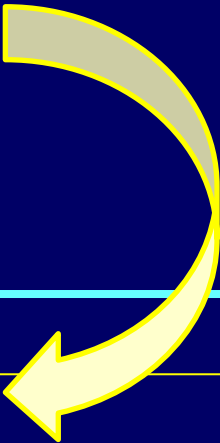
<毎回の追記事項>

調剤日

投薬に係る薬剤の名称、用法、用量

相互作用

その他服用に際して注意すべき事項

- 
- (1) 患者の病態変化の時系列情報、
 - (2) 能動的記録を活用した医薬品の安全性の確保、
 - (3) 「患者・医師・薬剤師の3者連携のための情報共有」

薬剤師からみたがん患者
～ 処方箋から見えるもの(Basic) ～



②処方せん事例
パターン化して ご紹介。

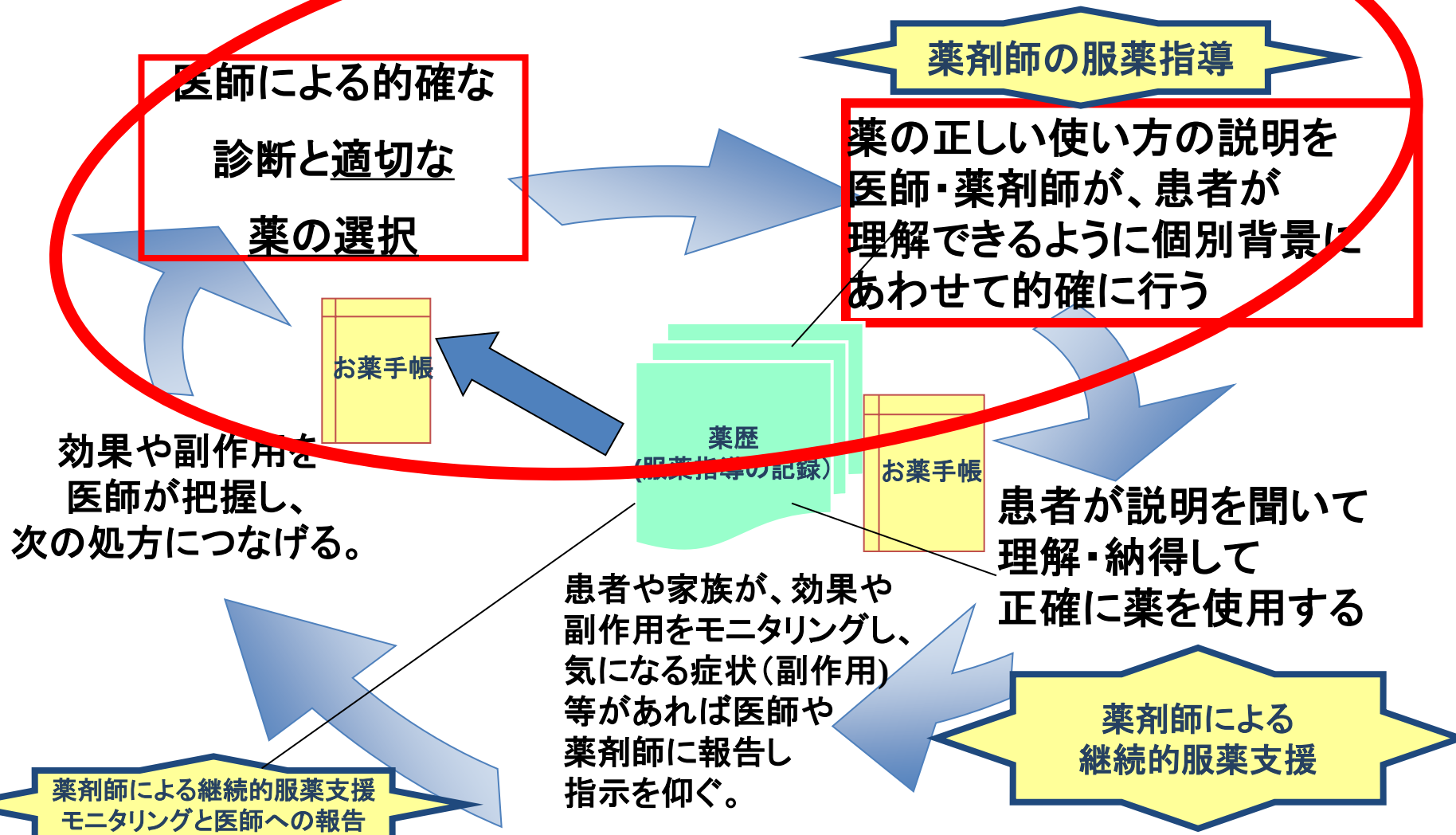
薬剤師からみたがん患者 ～ 処方箋から見えるもの(Basic) ～



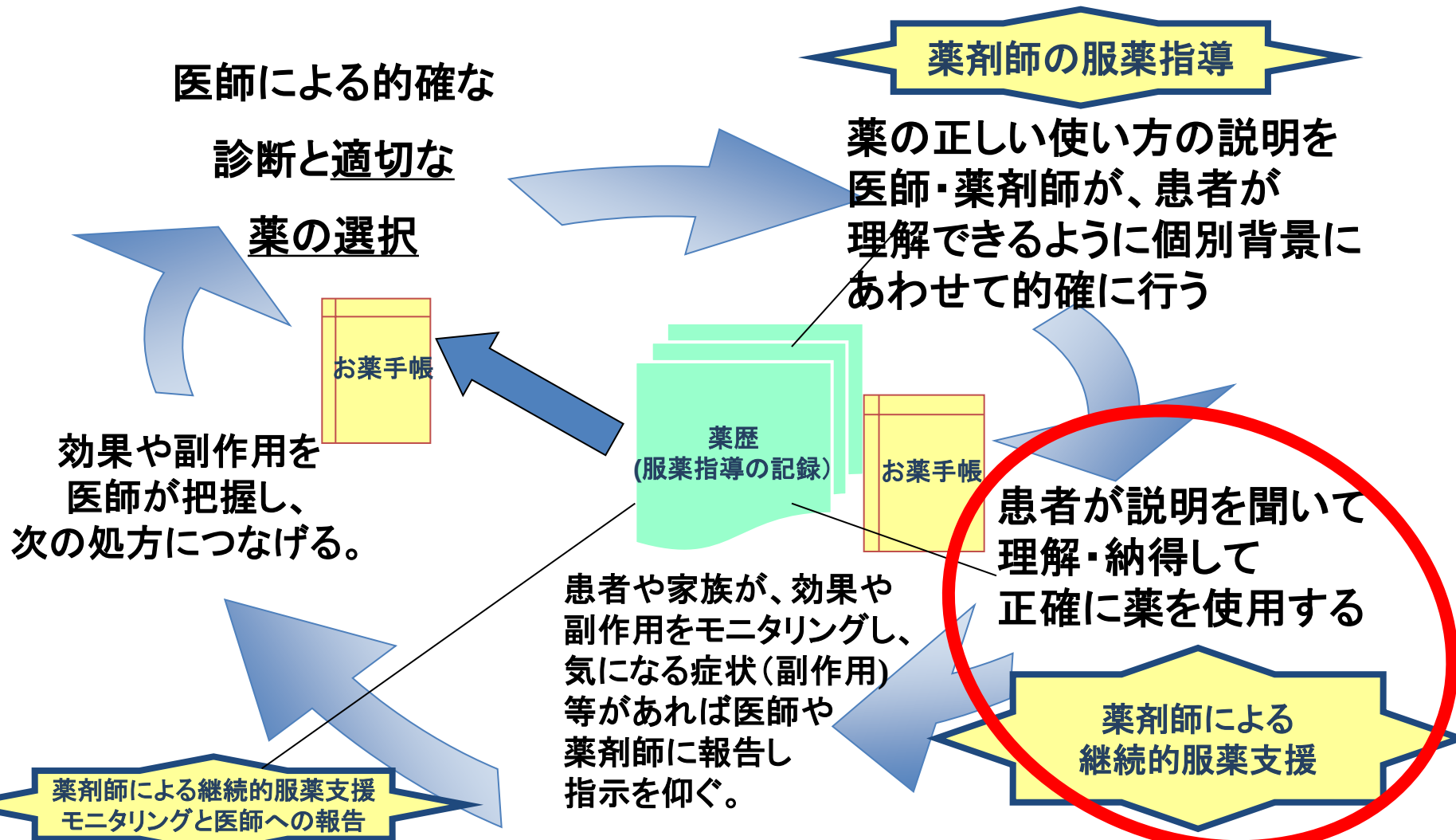
③ 課題はどこにあるのか？

(1) 処方箋の意図する情報の 共有化(見える化)

“医薬品の適正使用”と“服薬指導-薬歴-おくすり手帳”の役割 おくすりと安全に有用に適正に使用してゆくためのサイクル



“医薬品の適正使用”と“服薬指導-薬歴-おくすり手帳”の役割 おくすりと安全に有用に適正に使用してゆくためのサイクル



“がん”・・・治療・・・生活・・・家族

診断時からの
緩和ケア

緩和ケアの必要性

診断期

治療期

療養期

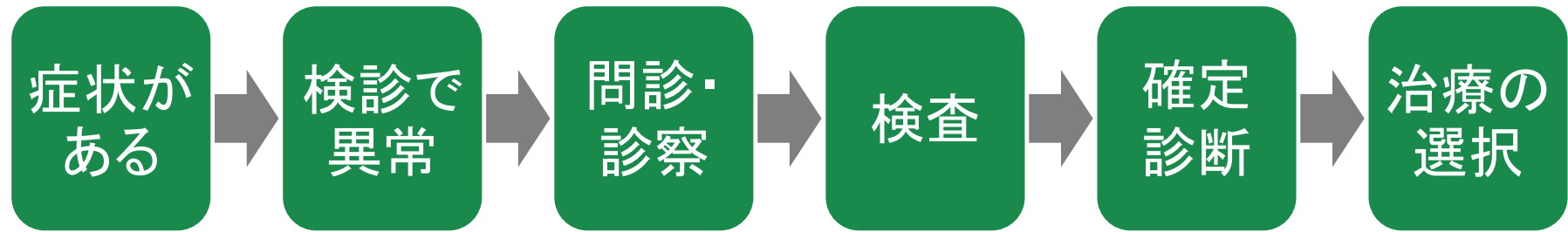
えっ!! 私、“がん”
なんだって・・・
何で?
どうして?
どうなるの?



これからどう
生きてゆくの
だろうか?
どうしたらよいか?
でも家にいたい……

緩和ケアとは、いかなる時期患者の苦痛を緩和し
QOLを改善する取り組み

診断期



検査

血液、画像（レントゲン、超音波、CT、MRI、PET等）、
内視鏡、病理

治療法

確定診断時に得られる病期、年齢、Performance Status
などで選択
患者・家族の希望によって選択肢も複数提示されることも

トータルペイン	具体的な苦痛
身体的	身体症状があることも、検査に伴う苦痛
精神的	不安→不眠、抑うつ症状など
社会的	治療費はどれくらいかかる？仕事は？
スピリチュアル	まさか自分が癌・・・？

治療期

手術療法



化学療法
ホルモン療法



放射線治療

寛解期（経過観察）

再発・転移

術後合併症

感染症、縫合不全、運動能力低下、創部痛など

化学療法副作用

骨髄抑制、嘔気、食欲低下、下痢、便秘、倦怠感、脱毛、末梢神経障害、関節痛、口内炎など

ホルモン療法副作用

ホットフラッシュ、浮腫、関節痛など

放射線治療副作用

倦怠感、皮膚発赤、照射部位による症状各種

トータルペイン

具体的な苦痛

身体的

病気による症状、治療に伴う副作用

精神的

治るのか不安、再発への不安、抑うつ

社会的

医療費、仕事しながら治療、家族の負担

スピリチュアル

治らず死んでしまうのではないかな？

WHO: 緩和ケアの定義 (2002)

緩和ケアとは

生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者と家族の痛み、その他の身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を早期に同定し適切に評価し対応することを通して、苦痛(suffering)を予防し緩和することにより、患者と家族のQuality of Lifeを改善する取り組みである。

【調剤前の問診】

- ①体質・アレルギー
- ②患者・家族からの相談事項の有無
- ③服薬状況
- ④残薬の状況確認
- ⑤服薬中の体調変化
- ⑥併用薬等
- ⑦合併症・既往歴等
- ⑧他科受診の有無
- ⑨副作用が疑われる症状の有無
- ⑩飲食物情報等
- ⑪後発医薬品の使用に関する患者の意向



処方せん

記載事項
被保険者証の記号・番号
保険者の番号
患者の氏名・年齢
患者の住所
薬品名、分量、用法
用量（投与日数）
処方せんの発行年月日
処方せんの使用期間
麻薬の使用者の免許証番号
医師の氏名の記名・押印または署名
病院所在地・名称・印



処方せん監査

疑義照会

調剤
↓
調剤監査

入力
↓
調剤録監査

調剤・調剤録監査

服薬指導

薬剤師からみたがん患者 ～ 処方箋から見えるもの(Basic) ～

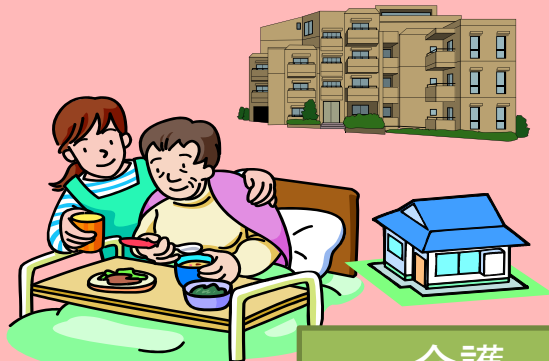


③ 課題はどこにあるのか？

(2) 退院時カンファランス 地域での医療カンファランス の必要性

医療連携の仕組み

生活の場



介護

在宅医療
訪問看護・服薬指導

在宅医療と訪問看護とは、医療が必要な患者が、生活の場である地域に戻る為に提供する必要最低限の予防と慢性期医療と定義

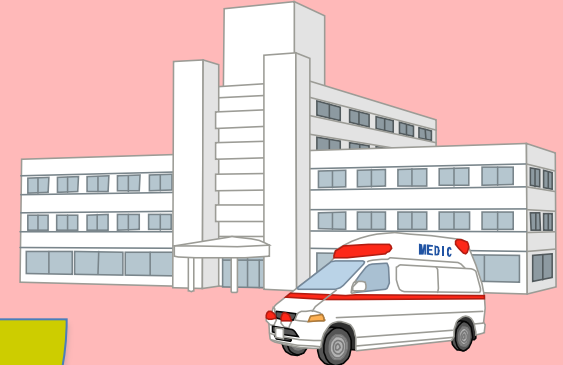
地域医療連携部

病院と地域の医療機関の
橋渡し役

地域の診療所⇒ 病院

地域の診療所← 病院

病院



専門の治療

診療所

訪問看護
ステーション

薬局

介護事業所

診療科
手術部

看護部

薬剤部

理学療法
リハビリ

栄養指導
部

臨床検査
部・放射線
科

薬剤師からみたがん患者 ～ 処方箋から見えるもの(Basic) ～



③ 課題はどこにあるのか？

(3) 患者、家族のこれまでの医療との関わり、
生活や生き方などの
情報をどの時点でどのように共有してゆくのか？
(チームメンバーがどのように考えているのか？)

在宅医療における医療者と介護スタッフ連携の実情の1例

訪問診療医師
Or
病院医師

介護事業所
ケアマネ・ヘルパー

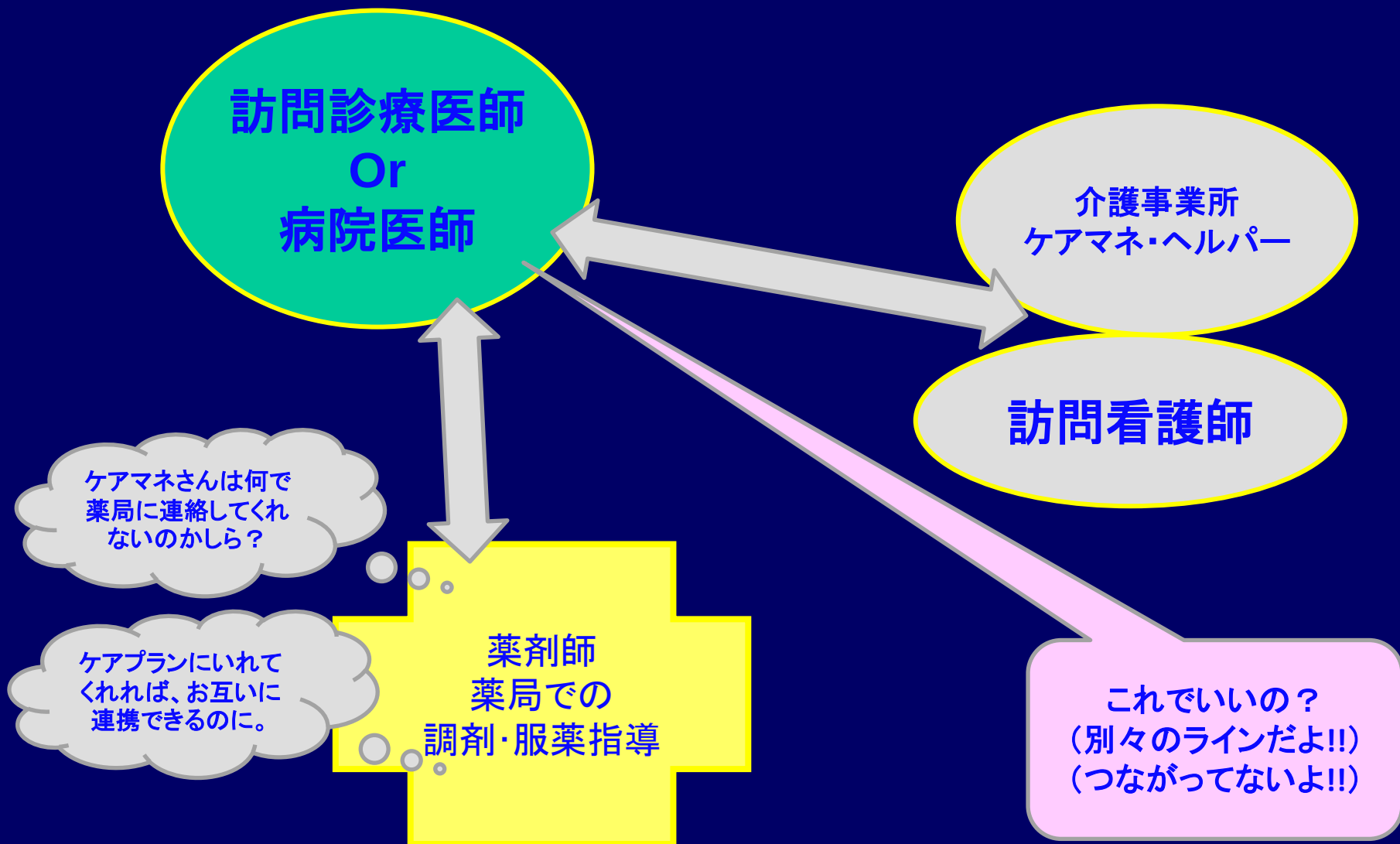
訪問看護師

ケアマネさんは何で
薬局に連絡してくれ
ないのかしら？

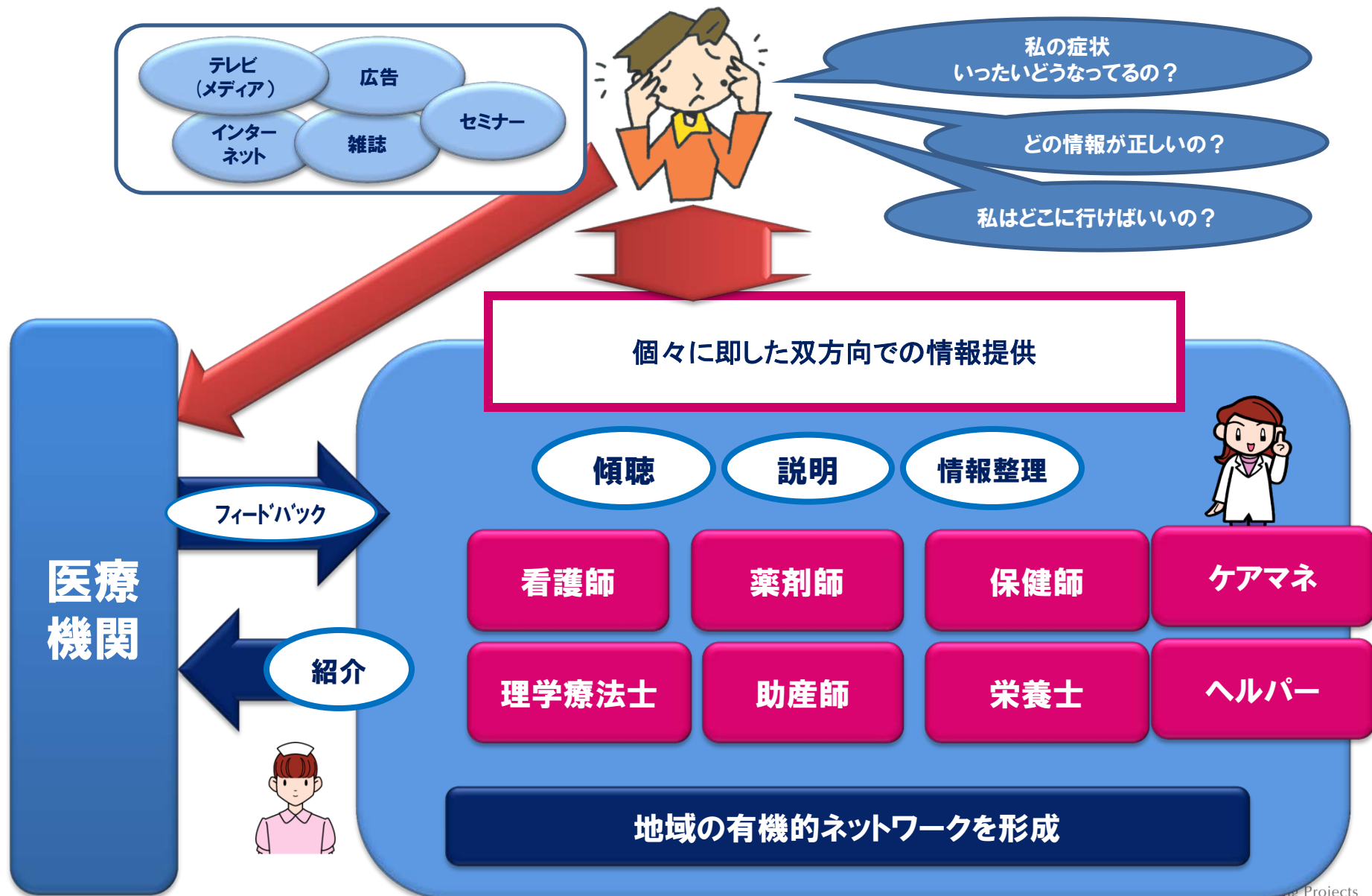
ケアプランにいれて
くれれば、お互いに
連携できるのに。

薬剤師
薬局での
調剤・服薬指導

これでいいの？
(別々のラインだよ!!)
(つながってないよ!!)



地域の拠点： かんわネット/在宅DI研修会(DI相談)/がん哲



地域で 患者様・家族・医療者・介護者 顔の見える関係 を作ってゆこう!!

立ち上がる地域発の七人の獅子たち・・・



あなたの席もご用意あり。あなたの居場所があります。
家族と一緒に考える居場所があります。

薬剤師からみたがん患者 ～ 処方箋から見えるもの(Basic) ～



③ 課題はどこにあるのか？⇒解決できるところから解決!!

まず、お互いの職務・機能を理解することから。

- (1) 処方箋の意図する情報の共有化(見える化)
- (2) 退院時カンファランス・地域での医療カンファランスの必要性
- (3) 患者、家族の今までの医療との関わり、生活や生き方などの情報をどの時点でどのように共有してゆくのか？
(チームメンバーがどのように考えているのか？)